

非常信号灯をお買い上げいただき、ありがとうございます。当製品を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。また、今後のメンテナンスのために、この取扱説明書は大切に保管しておいてください。

特徴

車載発炎筒の代替装備として車検対応電子の光で夜間の大きな安全性を追求車両に合わせてスッキリ収まる、新3WAYボディ構造

- 9個の高輝度発光ダイオードの強力な光が、あなたのクルマの存在を示します。
- 長時間点滅20時間以上(新品電池使用時)。発炎筒に比べて圧倒的な長時間発光で大きな安全性を持続。
- 底部マグネットにより、車のボディにピタリと取付OK。
- 全車種の発炎筒付金具に対応。
- 発炎筒のように雨を気にすることもなく、簡単、確実操作。
- 単四乾電池2個使用。

	非常信号灯	発炎筒
機能性	○ 煙が出ないでトンネル内等の使用も可能 下部の磁石により車両側面等への固定も可能	△ 煙により障害物を越えて異常連絡が可能
操作性	◎ スイッチONのみで点灯 混乱時に誰でも容易に操作可能	× 点灯までの手順が必要 年配者/混乱時の啾唳の作業に不安
効力持続性	◎ 著しい電池消費が無い限り数時間に渡り発光 (使用電球はLEDの為、電池消費は極めて微量)	△ 一般的に約5分間
有効期限	○ 電池消費を除けば、ほぼ永久→ 車検時等における交換不要	× 製造後4年→ ほぼ毎車検時交換
光度	1cd	160カンデラ以上
サイズ	現:発炎筒と同等サイズ	Φ33mm~130~150mm

新3-WAYボディ構造

1-WAY.

【32mmΦタイプ】
トラック、商用車及び一般車など



32mmΦタイプの発炎筒が装備されているホルダーの場合、下記写真のようにバッテリーキャップアダプタを外さず、出荷状態そのままご利用いただけます。

1-WAY. 装着例

2-WAY.

【27mmΦタイプ】
中型一般車、輸入車など



27mmΦタイプの発炎筒が装備されているホルダーの場合、下記写真のようにバッテリーキャップアダプタ(A)と透明アダプタ(B)を取り外してご利用ください。

2-WAY. 装着例

3-WAY.

【軽自動車(27mmΦ)ストレートタイプ】
小型車、軽自動車など

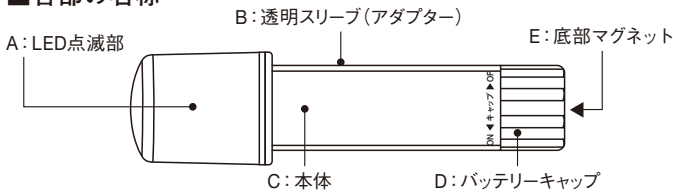


本製品ボディの凹凸や出っ張りにより、ピタッと収まらない車両があります。この場合、上記2WAYの状態から、上記のように時計方向「右」に回すとレンズカバー部分が偏心に回転しボディに平らな部分が出来、ホルダーの形状に合わせてご利用いただけます。

3-WAY. 装着例

使用上のご注意

■各部の名称



■緊急使用時

- Dを左(時計逆回り)へ廻すとA部が点滅します。
- 周辺車両が確認しやすい箇所にE部を設置します。
- 非常信号灯は車両搭載発炎筒の代替としてご使用ください。

■電池交換

- Dを左に廻しAが点滅しますが、さらに左に廻しDを取り外し、電池(使用電池:単4乾電池 2本)を交換します。

■透明スリーブの外し方

- Dのバッテリーキャップに装着されているバッテリーキャップアダプタをスライドさせ取り外します。
- Bの透明スリーブをスライドさせ取り外します。
- Bの透明スリーブを再度使用になる場合、本体の前後で若干太さが異なり、取り付けを間違えるとBの透明スリーブにガタツキが発生しますので、スムーズに挿入できる方向で取り付けてください。

■注意事項

- 走行中の車内での点灯は行わないでください。
- 乾電池の使用期限が切れていないか・液漏れ及び点灯(点滅)の動作を定期的に確認してください。

- 底部の設置マグネットで車体に傷が生じる恐れがあります。脱着時や設置後は車体にごすらないでください。
- 本体を分解したり、強い衝撃を与えないでください。
- 本製品を車体に設置した状態で走行しないでください。
- 乾電池は単4型2本を使用し、+を正しく入れてください。(液漏れや故障の原因になります。)
- 乾電池交換の際には必ず2本とも交換してください。
- 購入時に装着されています乾電池はモニターバッテリーですので、使用期限を確認し作動テストをしていただき、もし電池容量不足の場合は交換してください。
- 本製品の透明スリーブ廃却の場合は、一般ゴミとして処理してください。
- バッテリーキャップをOFFからONの方向に回転すると点滅します。締め込み中にLEDが点滅しますが、締め込みは最後まで行ってください。



注意

本体は発炎筒の代替品の為、発炎筒ホルダーにきっちりと装着してください。(外箱の表示をご覧ください。)

■非常信号灯回転機構のご注意

非常信号灯の回転機構は、取り付ける車種により頭部がぶつかる事を防ぐ目的で考案された製品です。取付部の形状、スペースをお客様ご自身で確認し、対応をお願い致します。

- 回転機構は、取付方法決定後何回も回転させる事はおやめください。
- 何回も回転を繰り返した場合、頭部に緩みが出る場合があります。
- 一方方向に回転させる事はおやめください。(戻す場合は逆方向に回転させてください。)
本体内部の配線がねじれ、断線となる危険があります。
- 回転の方法は『3-WAY』に従って行ってください。